

大江ゼミ

10N1062 下田悠貴 大江ゼミ

### 「ウォークラリーの感想」

私は青山～表参道周辺を歩いた。千葉出身だが、今まであまり東京に足を運ぶことがなかったので、初めて見る建物ばかりだった。その中で特に印象深いものについて調べ、自分なりに考えたこと・感じたことを書いた。

#### ■青山■

コムデギャルソン

コンセプト・デザイン:川久保玲

用途:店舗

コムデギャルソンのデザイナーである川久保玲がコンセプト及びデザインをした。店内が丸く区切られ、壁に傾斜があり天井に向かって広がっている。植木鉢のような形状。壁は青みがかっていてシールのようなものでドット柄になっている。このような形は初めて見たのでとても驚いた。一般的な建物と違って、床と天井の間に“挟まれている”という感じがあって面白かった。円形を囲んだ壁は上に向かって広がっていて、照明が上から下に光を広げているので、その対照的な広がりが独特な空間を作っているように思った。

プラダブティック青山

設計:ヘルツォーク&ド・ムーロン

用途:店舗

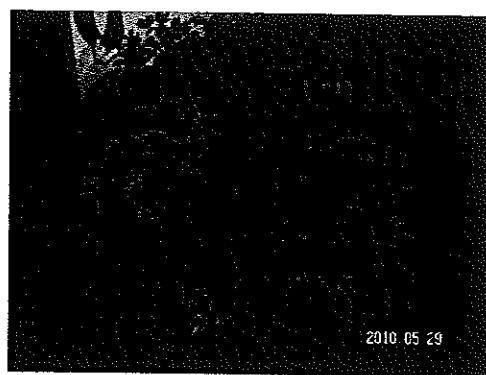
大きなひし形の、凹凸があるガラスブロックでつくられている。周囲に比べてとても目立っていて圧倒された。こんな建物がきちんと建つことに驚いた。ガラスの凹凸が中見えすぎないように、かつ開放的な空間にしているのではないかと思った。ガラスを通して中をぞいて見ると、全体的に白で統一されていた。この建物は夜にも見てみたいと思った。きっと中の光がガラスから外にもれてとてもきれいに見えるだろう。

プロムファースト

設計:山下和正

用途:商業施設

茶色のレンガのつくりで、外観は窓や平面でのつぱりが不規則に並んでいた。しかし吹き抜けがある内側は対照的な階段や廊下があり、迷路のような建物だが、落ち着いた雰囲気があった。廊下の吹き抜けの面へのつぱりや床の模様、ドアやレンガなど、細かい部分のデザインがどこなく可愛らしく感じた。また1階の吹き抜けの真下にある木が葉っぱだけの木だったが、葉が花のような形で、私は周りのレンガのつくりと合っていると思った。この建物はとてもよい雰囲気で好きになった。天気があまり良くなかったので、光が弱く、吹き抜けがあっても薄暗かつたのが残念だった。天気の良いときにもう1度見てみたいと思った。また、夜はどんな雰囲気になるのだろうと興味が出た。



コレッツィオーネ

設計:安藤忠雄

用途:商業施設

円柱と直方体が組み合わさった形の建物。私は今まで全體がコンクリートである建物にあまり惹きつけられたことはなかった。しかしコレッツィオーネを見て、コンクリートの曲線の通路や壁面はとても美しいと感じた。私はコンクリートに“冷たさ”を感じていたが、曲面や曲線だとその冷たさが緩和されているようだと思った。新しい発見をしたようで少しうれしく思う。この建物は周囲の環境を壊さないように大半を地下に埋め高さを抑えている。そのため採光の計画に特徴があり、地表から20m下のプールがある階まで自然光が入り込むようになっている、とのことで、天気が悪くよくわからなかった。やはり天気の良い日にもう1度見たいと思った。

## ■表参道■

### ONE 表参道

設計:隈研吾

用途:オフィス・店舗

表参道の通りに面した壁面は木製の大きなルーバーで覆われている。周囲には木造の建物がないので逆に大きな存在感を感じた。通りの並木と木製の外観は調和しているよう、私には並木とこの建物で1つの作品になっているよう見えた。私はもとから木造建築や、木造が組み込まれた建築に興味を持っているので、やはり木の美しさに惹かれた。隈研吾さんの建築作品は木造のものが比較的多いとのことなので、ほかの作品も見に行こうと思った。

### 表参道ヒルズ

設計:安藤忠雄建築研究所

用途:集合住宅・飲食店・店舗

表参道ヒルズは同潤会青山アパートの建て替え事業によって誕生した。同潤会青山アパートの次の時代への『再生』をテーマとしてさまざまな工夫や配慮がされている。その中で私が関心を持ったのは1棟だけ旧・同潤会青山アパートを復元すること、旧・アパートの建材を再利用すること、表参道の緩やかな坂道を建物に取り入れることである。復元や再利用は次の時代へつなげようという意図や『建て替えがく都市の記憶』の喪失となってはならない』という安藤忠雄さんの意志の具体的な姿を感じられた。そして坂道の導入に私は驚き、感心した。坂道を取り入れることは不快さも伴うのではないかと考えた。しかし表参道の緩やかな坂道をそのまま取り入れる、というそのかすかな不快さは『表参道』を感じさせる大きな要素だとも思った。その場所でしか出来ない、最大の効果を發揮する工夫だと感心した。

### TOD'S 表参道ビル

設計:伊東豊雄

用途:店舗

表参道のシンボルであるケヤキの木を抽象化したコンクリートフレームにガラスやアルミパネルがはめ込まれている。通りに面している部分は少ないので、しっかりした存在感があった。それは斬新なデザインだからだと思うが、真っ白なコンクリートと縁がかったガラスで構成されていて、落ち着いた雰囲気もあると思う。ガラスが使われている建物はやはり夜にも見てみたいと思った。

### レイ・ヴィトン表参道ビル

設計:青木淳

用途:店舗

トランクをいくつも積み重ねたような構成になっていて、小さな空間が立体的に少しずつズレながら、連続し合い、一気に上まで行けるようになっている。この建物は小さな空間を通るたびに、変化する空間が楽しめるのではないかと思った。そして次は何だろう、という気持ちにさせることも歩いて建物全体をまわる原動力になっていると思う。

### hhstyle.com

設計:妹島和世

用途:インテリアショップ

通りに面している部分はガラス張りになっている。ガラスにストライプ上のセラミック印刷がされていて、そのストライプの太さはフロアによって変えられている。ストライプはゆるいS字を描いている。スロープのようにゆるい階段を使い、道を立体的に折りたたまれたような構造になっている。中は白で統一されていて、主役の家具が引き立つような印象を受けた。ゆるい階段沿いにさまざまなイスがディスプレイされていて、立体的な道を歩いて美術館のように商品を見ていくのはとても楽しかった。

## ■全体を通して■

このウォークラリーは自分にとってプラスになることばかりだった。さまざまな形や材質の建築を見てたくさんの刺激をもらった。そしてさらに自分で調べることで、建築家やその設計に至った考え方や工夫などを知ることができ、感心することばかりであった。また、友人や先輩、教授とコミュニケーションをとる貴重な時間でもあった。今回見たところは天気の良い日や夜など、時間帯を変えてもう一度見に来ようと思った。これからは自分で興味を持った建築をどんどん見に行きたいと思う。そして、私に大きなきっかけをくれたウォークラリーに、今度は先輩として来年、再来年と参加していきたいと思った。

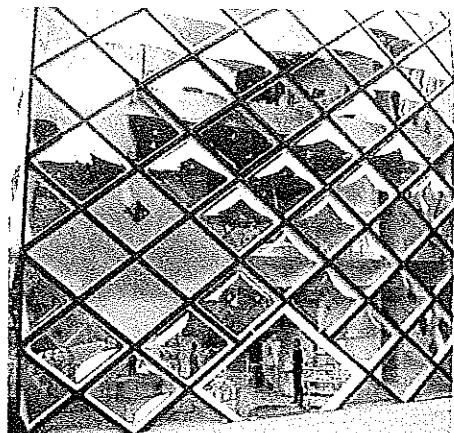
2010/5/29 ウォークラリー感想

10n1063 白山詢也 大江導入ゼミ

5/29

ウォークラリーは、表参道駅を出発し、乃木坂、六本木の順でまわった。

## 表参道



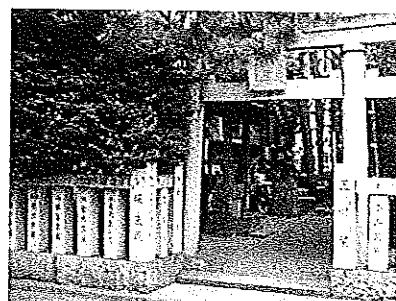
表参道では、様々なファッショングランドの店が立ち並び、その一軒一軒が独特でかなり強い個性をもった建築であることが見受けられた。

ひとつの隣には、全く別の世界観をもった建築があるということの連續で、なかなか落ち着かない感じもあった。

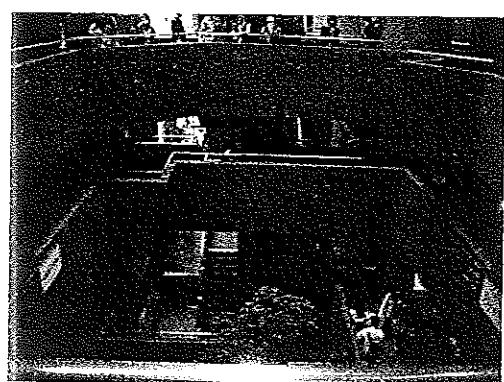
しかし、いくつも店がある中で似ているものは一つもなく、一つ一つが目を奪われるような意匠の高い建築であったため楽しむことができた。

(写真：プラダブティック青山)

現代的な建築の中に、ひっそりと小さな神社があった。大江教授が「古いものを排除して新しいものだけを残すほどつまらないものはない」と言っていたのが印象的だった。



外見が特徴的なものだけでなく、構造が特徴的なものもいくつかあった。中央が吹き抜けになっているフロムファースト(設計:山下和正)や、建物の全フロアの様子を覗きこめるような構造のものがあった。



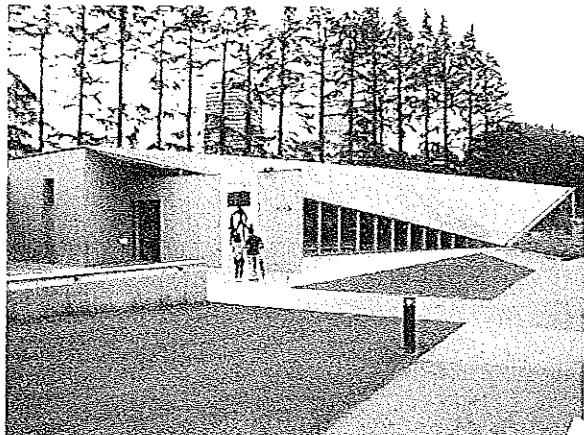
## 乃木坂

乃木坂では、ギャラリー・間を訪れ、竹原義二展を見た。

初めての建築展の体験であり、初めて見た本物の建築家の製図は、コンピューターで描かれたものと勘違いしたほど精密だった。

展覧会のため撮影はできなかったが、精密すぎる図面とユニークな形の建築模型は色濃く記憶に残った。

## 六本木



最後の六本木では、磯崎新アトリエや安藤忠雄設計の美術館 21 DESIGN SIGHT を外から見た。

安藤忠雄にしか出せないというコンクリートのエッジを直に触れ、鋭さに驚いた。

六本木は表参道とは違う雰囲気で、高級感漂う街並みだった。

今回のウォークラリーを通して、足を運んで建築を体感する面白さと大切さを学んだ。一見して特に惹かれるもののない風貌の建物にも、入ってみて初めてわかる快適な空間があるかもしれないということを知ることができた。これからは積極的に足を動かして、東京という建築に恵まれた環境を活かしてみようと思う。

導入ゼミナール ウォークラリーレポート（大江ゼミ）

10n1064 杉原由樹子

### ウォークラリーの感想

大江研究室のウォークラリーは、まず全員で青山周辺を散策したのち、「表参道最強コース」、「六本木アートコース」、「六本木セレブコース」の3コースに分かれて歩くというものであった。私はその中の「六本木セレブコース」を歩いた。

### 青山散策

最初の散策では大江教授の説明を聞きながら高級ブティックや複合商業施設などを見た。特に印象に残ったのは「ヨックモック青山本店」（店舗、カフェ併設）と「フロムファースト」（商業施設）だった。両方とも1970年代の建造物であるがあまり古さを感じず、外部と内部がつながっているような設計であり、道を歩いていてスッと入りたくなる建物であった。

### 六本木セレブコース

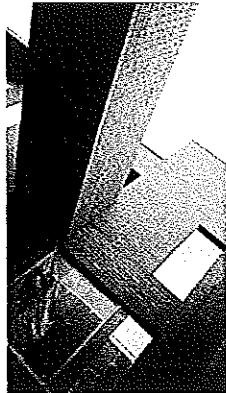
3コースに分かれてからまず私たちは乃木坂駅まで行きそこから周辺を見て回った。「新国立美術館」と「東京ミッドタウン」は以前何度か個人的に訪れたことはあったがそのときは中でやっている展覧会などしか見ていなかった気がするので、改めて建造物としてみると立派だと感じた。ミッドタウンの隣に磯崎新の事務所と板倉準三の事務所が並んでることは知らなかったのですごく驚いた。乃木神社では大江教授が設計した建物も見られてよかったです。大江新太郎、大江宏に続いて教授も設計したという事実にびっくりした。「ギャラリー間」も初めて行った。時間がなくてあまりいられなかったが建築関係のいろいろな展覧会をやっているということなのでまた行きたいなと思った。

今回のウォークラリーを終えて街を歩くことが面白いと感じるようになった。特に東京は優れた設計の建造物や広場が多くて飽きなかった。これからもせっかく東京まで定期を買っているので今回自分が行けなかったところも行きたいと思った。

# ウォークラリー

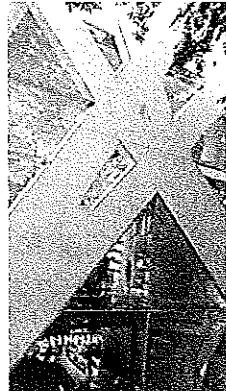
建築学科 10N1065 杉山 勇樹

## ・山下 和正



壁が茶色のレンガでできていた。なんとなく自分では味もでているし、落ち着感じの雰囲気が出ていてよかったです。さらに、地下には花屋もあり、オシャレでよかったです。中に入る不規則な廊下があり、階によって形態は様々だった。迷路に入りこんでしまったような気分にさせる、建築物だった。

## ・表参道ビル



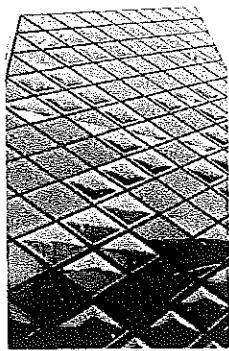
自分はこの建築物を見たときは、設計者が自由にして、適当に窓を切り抜いているのだと思っていた。しかし、この切り抜きにおいても、計算において、切り抜いたことによる、耐震などの強化がされていることを知り、構造分野もやはり、大切なものであると思った。また、構造計算からデザインが決まっていくのもありだなあ、とも思った。

## ・安藤 忠雄



基本直方体のシンプルな形をした建築物であったが、それが逆に惹かれる気がした。外から見ると窓が少ないと印象も受けたが、中の証明と暗さがちょうど良い雰囲気を醸し出している気もした。あえて、光を取り入れないのも、ショップ関係ならありだと思わせてくれる建築物だった。

#### ・ヘルツォーク＆ド・ムーロン



全面ガラスで覆われた大胆な建築物であった。耐震的には大丈夫であったとしても、倒れてしまったときにガラスで大変なことになりそうであると思った。ガラスは他の建築物とは違い、少し丸みを帯びた感じになっていて、中が歪んで見えて、モザイクの様な機能を果たしているように見えた。ただの全面ガラスでは、お店の商品を外から眺めることができて、便利に思えるが、中にいるお客様にとっては、ジロジロ見られている気がして、落ち着かないと思う。なので、この建築物はそれを克服したものであると思った。

#### ・隈 研吾



一回テレビの特集かなんかで拝見したことがある建築物だったので、中に入れなかつたのは残念だった。根津美術館は都内ではない日本風の建物であると思う。屋根も瓦でできていて、周りには竹が植えられていた。

人を和ませてくれる雰囲気のある建築物で好きな感じであった。美術館に行くと天井は高めではあるが、展示物を紫外線から守ることなどの原因により、密閉空間になり、落ち着かなく、疲れる。しかし、この美術館は、テレビの知識では入ってすぐ庭が広がっており解放感あふれるものであった気がする。なので、自分の中で美術館を設計する際に気をつけたいと思っている、お客様が伸び伸びと見ることができる空間設計の際にはお手本にした美術館である。今度機会があればぜひ行きたい。

# 学籍番号10n1066 鈴木俊之 大江ゼミ所属

## フロムファースト

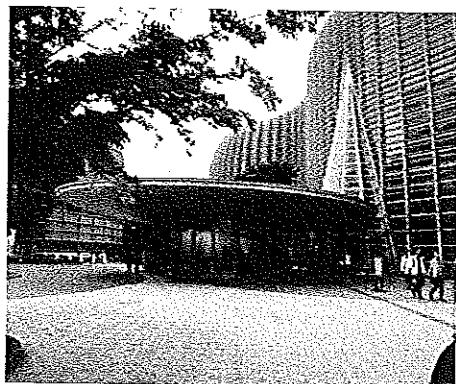
1975年に竣工された商業施設ですが、他の目新しい多くの建築物と比べてもとても大きなインパクトがありました。まず、最初に驚いたのが花屋が地下にあったことです。私のイメージでは花屋は見た目に美しくその名のとおり華があるので、建築物の中でも目につきやすい通路に沿いに面した部分に配置するものだとばかり思い込んでいました。ですが、ここでは少し中に入つてみると花屋があるのがわかりません。私は、この空間の配置の仕方と赤い煉瓦タイルに覆われた外壁の異国のような組み合せにこういう空間の使い方もあるのかと驚きました。



内側は若干入り組んでおり、さらに暗く、狭く、中を動きまわるには少し不便なようでも、中心の広場から上にずっと開かれた吹き抜けの空間があることで解放感を感じることができました。また、八角形でこれを囲むことで特に広場を強調させているように思えました。さらに、天井や隙間から取り入れる光には、まるで木陰にいるようにさえおもえました。

## 国立新美術館

この美術館は企画展示のできる数少ない美術館ということで、写真の面はうねったような斬新なかたちをしてはいますが、若干の緑色をあしらっており、また優しい波のようなカーブなので周りの緑とうまく調和してるように思えました。中身も写真側は自由に大きく空間をつかっていましたが、機能的で、落ち着いた印象でした。



今回ウォークラリーに参加して、いろいろな建築物を見て回れてとても良かったです。うえに挙げてない他の建築物も考えたことのないような斬新なかたちだったり、そういう構造、つくりにすることで様々な付加効果を与えたと建築の可能性を実感することができるものでした。

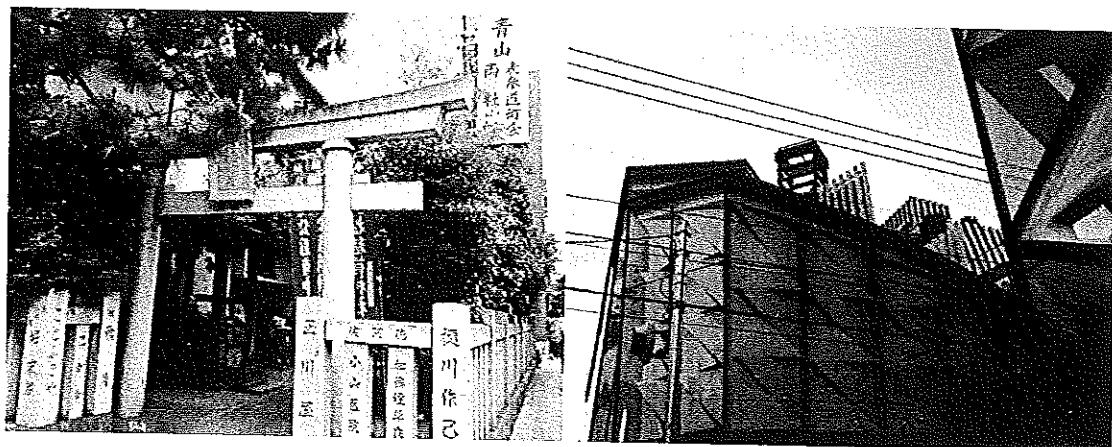
建築についてまだ深く良くはりませんが、こういった建築物を見れたことで今までとは少し違った建築物の見方ができるようになったと思います。

## 【ウォークラリー2010】

10N1067 鈴木なつみ

今回のウォークラリーで印象に残ったのは表参道の街だ。表参道といつも原宿のキャットストリートからの帰りに、駅まで歩いて通る程度であったから、まったくもって詳しくなかった。

実際にこの日、歩いてみると、表参道の印象ががらりと変わった。今まででは、高級店などが並ぶ、セレブの街、おしゃれな街という印象だったが、神社や学校など、人々の日常生活に密着した身近に感じるような建物があったことによって、日常と非日常が混在した街という印象に変わった。それでもなお、表参道はわたしにとって非常におしゃれで洗練された街である。建物の中に入っても、どういった建物なのかわからないような不思議な建物もあった。さまざまなデザインが並んでいるのにも関わらず、都市景観がまとまっているように思えた。



## ウォークラリーを通して学んだこと

10n1068

鈴木志迪

僕は大江教授、TAの方たちと表参道～市ヶ谷コースのウォークラリーをしました。表参道は、1920年（大正9年）に創建された明治神宮の正面側参道として整備された道路で、東京都渋谷区と港区にまたがって位置し、都道413号線のうち原宿駅前付近から青山通りと交差する表参道交差点までの区間を指します。その表参道を歩いて最初に目に留まったのは灯籠でした。灯籠はあかりの火が風などで消えないように木枠と紙などで囲いをしたもので、仏教の伝来とともに渡来し、寺院建設が盛んになった奈良時代から多く作られるようになり、多くは僧侶が用いたとされるものです。その後、オメガのビルなど近代的な建築士が設計した建物を見ることができました。表参道の建物はほとんどの建物の入口が開放的で人が気軽に入りやすい設計を意識している気がしました。その後大江教授とともに、表参道最強コースを巡りました。一番印象に残っているのは安藤忠雄さんが設計した表参道ヒルズで、表参道ヒルズは、2006年2月11日にオープンし、全長は約250メートルで、地上6階、地下6階。西館、本館と同潤館からなり、地下3階から地上3階は国内外の有名ブランドなどが入居する商業施設であり、4階以上は住居施設となっています。表参道の傾斜にあわせ、床をスロープ状に傾斜させているのが特徴です。本館内部は6層分の吹き抜け構造になっており、そのまわりでは「スパイラルスロープ」と呼ばれる通路がらせん状につながっています。このように、建物の中にもいろいろな工夫がなされてあってとても勉強になりました。他には表参道のシンボルであるケヤキの木より建物が高くなってしまうと表参道の雰囲気を悪くしてしまうことから建物を地下に伸ばしたところはとても感動しました。

最後にウォークラリーを通して一番学べたことは今まで漠然と見てきた建物の中に、一見気付かない様々な工夫がなされていることを知り、建物を見るのがさらに好きになりました。これからもたくさんの建物を見ようと思います。

## ウォークラリーレポート

10N1069 鈴木悠太

今回のウォークラリーでは、普段では行く機会のない青山・六本木を見るということで、雑誌やテレビでしか見たことのなかった建物をこの目でみれたことが良かった。今まででは二次元の世界でしかわからなかつた建物を実際見ることにより、高さ・幅・奥行きのような二次元ではわかりえないことを実感出来た。青山で見た建物では、プラダブティック・フォムファースト・根津美術館の3つが印象に残った。

プラダブティックは全面ガラス張りそして規則的に並んだひし形の枠内にガラスが膨らんでいて、なんでこのような形にしたのか考えさせられました。さらに、中の構造も中央に階段があり、その周りを商品が囲んでいる感じで一見シンプルだが客側から見たら買いやすい環境である。よくよく考えてみると渋谷109も中央にエスカレーターがあり周りを店が囲んでいる構造である。次にフォムファーストは迷路のように入り生んでいて同じ建物でいろいろな場所により景観が変わっていたので面白い建物だと感じた。

1～3階にかけて吹き抜けになっていてそこに木を植えていて良かった。  
その後六本木に移動し竹原義二展に行った。

多くの原図が展示されていてそれらの模型も展示されていて、こういう展示会には行ったことがなかったのでいい体験ができた。

実際建てられているものの映像があり、光を利用し住宅内を演出しているよう感じた。反射やスリットを使っていて芸術作品だった。

最後に見た21\_21 DESIGN SIGHTは安藤忠雄氏が設計したものなので雑誌で見たことがあったが生で見ると全然違っていてあの鋭角さを見て良かった。

あのように設計した安藤氏もすごいが言われたように造った人もすごいと思った。

今回いろいろな建物を見たが、中には知っているものもあったが実際に見るいうことがいかに大切なのかということがわかった。

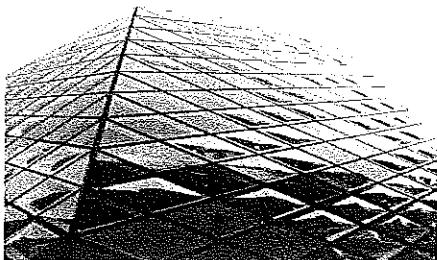
これからその場所に行き見て感じることをやっていかなければいけない。

# ウォークラリーを終えての感想

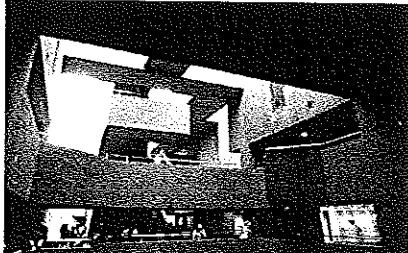
10N1070 建築学科 鈴木涼太 大江ゼミ

今回のウォークラリーでは最初グループ全員で青山周辺を歩き、そのあとは3つのグループに分かれてそれぞれの場所に行きました。自分のグループは六本木セレブコースと題されたコースを歩きました。

まずは青山周辺。自宅が東京に近いにも関わらず今まで青山なんて行ったことがなくて、正直こんな都会なところにいい建築物なんであるのかと思っていたけど、実際に行ってみると今まで見たことないような斬新なデザインの建物が多くて驚くばかりでした。その中でもプラダスティック青山、フロムファーストは特に印象的でした。プラダスティック青

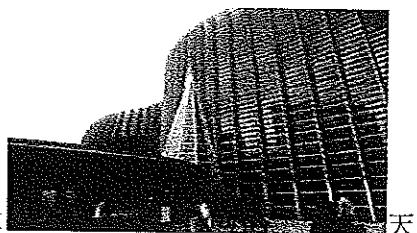


山は、全面がガラス張りで店の中が丸見えになっていて店全体を外からでも見られるように構成されていました。壁のガラスは分厚く、ところどころ曲線状に凸凹しているところが印象的でした。設計者が何のために、そしてどんな意図でところどころ凸凹にしたのか知りたくなりました。フロムファーストは、



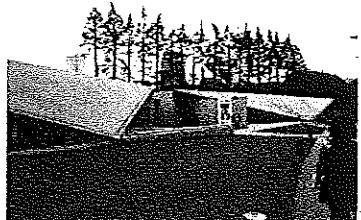
外見は前に学校がある関係でわざと窓を小さくしたり、窓が小さいからたくさん太陽の光を入れるために天井に天窓をつけたりしていてあまりぱつとしない感じなのに、建物の中は通路が入り組んでいて迷路みたいでした。外側と内側のギャップがとても印象的でした。

六本木セレブコースでは東京ミッドタウンや六本木ヒルズなど、『THE 都会』という感じの建物が多くセレブ感が漂っていました。そして六本木と言えば六本木ヒルズ。遠くから



見てもひときわオーラが違っていました。国立新美術館は

井がすごく高く、外壁面が曲線になっていて、中のデザインも個性的で美術館にぴったりな雰囲気でした。外壁に変な板のようなものがたくさんついていてデザインでついているかと思ったら、日射熱や紫外線をカットする役目もはたしているなんて・・・。あんなやり方もあるのだなと思いました。また、ミッドタウンの近くにあった安藤忠雄さん設計の



21\_21 DESIGN SIGHT。

正直、今の自分じゃどこがいいのか

わかりませんでした。でも、外見はシンプルでほとんどのボリュームが地面に埋っているデザインは面白いと思いました。最後のほうに行った乃木邸・乃木神社。

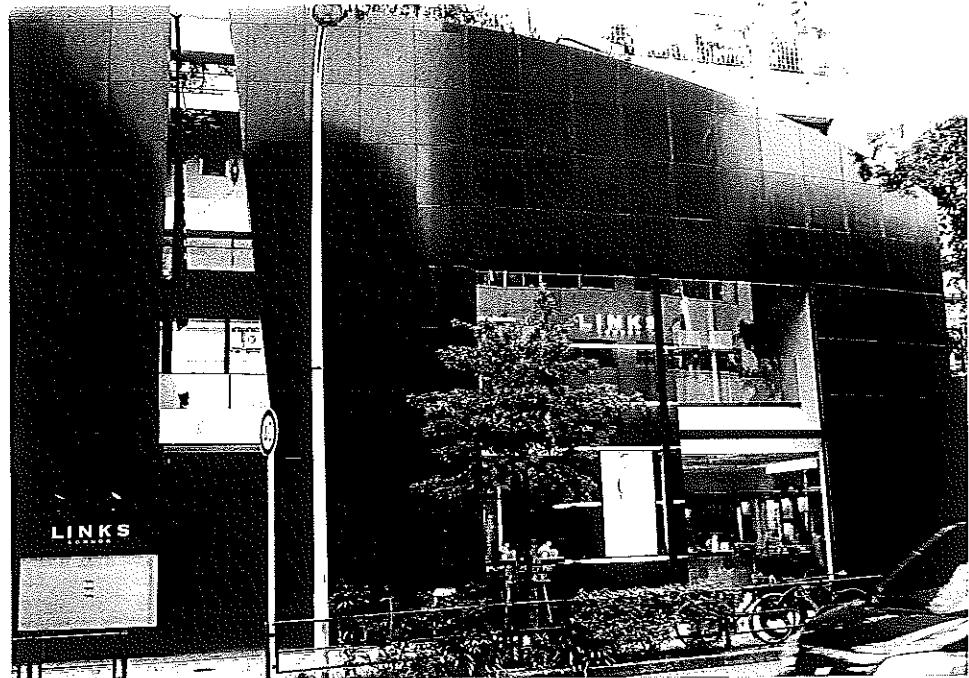


この建物を大江先生のおじいちゃんやお父さん、

そして大江先生自身が設計したと聞いた時はとても驚きました。大江先生は偉大な人なのだと改めて思うような場所でした。

今回のウォークラリーで、多くの建造物を見てますます建築という分野が好きになったと同時に、自分も未来に残る偉大な建造物を建てたいという思いが湧きました。また、やっぱり写真などで見るより実際に建造物を見に行くことが大事だということもウォークラリーを通じて感じました。今後に役立つ、とてもいい経験でした。

# 導入ゼミ・ウォーフラントレポート



大江ゼミ

10N(091)

関根有梨

①



②

この二枚は、表参道通りにある建物である。①は、二階から学校が見えるために、実際の空間よりも感じることが出来る。一見変わらぬ建物だが、表参道という並に新しいものが求められる町にはよく馬川染みていた。②は、表参道の中にあり、子供に見える小さなショッピングモールである。地上には、木があり、自然を取り入れていた。この二枚の共通点は、自然と都会をさり気なく導入しているところであった。まだ、表参道の表参道を回りたい